

NPO セフティマネジメント協会

第7回日中「夢」サロン開催

2008年の中国、北京を振り返る



出崎氏



大八木氏

NPOセフティマネジメント協会は東京都中央区「うすけぼー」で12月25日、大八木貴子氏(㈱キャブテンから金誠国際保険經紀有限公司日

本事業部へ出向中)を講師に招き、「2008年の中国、北京を振り返る」と題して、第7回日中「夢」サロンセミナーを開催した。

セミナーでは大八木氏が次のように講演した。

◆ オリンピック中の北京は、地下鉄に乗るにもX線の検査があり、改札口

には長蛇の列が続き、治安強化のために出稼ぎ労働者が北京から消えてしまい、交差点の四隅にはパトカーが止まり、天安門広場は午後9時には閉鎖された。

08年の中国保険業界は受難の1年であった。雪へのインフラがない南部地域における1月の大寒波は、被害が甚大で保険金支払は35億元に達した。5月の四川省地震は6月時点で43億円の支払となり、さらにサブプライム問題が追い打ちをか

けた。フローカーを利用していた企業は財産保険に地震特約が付帯されリスクがカバーされたため、フローカーへの注目が高まっている。中国では、地方のインフラ整備に向けた大型公共事業推進政策への期待

が大きく、住宅建設・電力などのニーズが顕在化している。鳥インフルエンザのリスクもあり、業務中断保険・営業継続保険・取引信用保険などが注目される保険種目。

最後に㈱キャブテンの出崎代表取締役が「中国は潜在的余力を有しており、来年は活況を呈するはず。日本は大危機に等しい状況にあるが、ここを頑張り抜けばやがて底を打ってリバウンドすると楽観的に見ている」と結んだ。

【大八木貴子(おおよ)